

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 46 号

発行日
2025.02. 28
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○学生寮は、良くも悪しくも？飛躍のための時間・空間！

これまで、ここでは「あくまでも自分史として」という副題を付けているにも拘らず、自分の過去、とりわけ若い頃のそれをあまり書かずにしたが、あるテレビ番組のお陰で、少しは書いてみようと思いはじめた！それとは、NHKの「よみがえる新日本紀行昭和の日本が鮮やかな映像に」で、件のそれは、「都ぞ弥生」札幌・北大恵迪寮」というものであった（元番組1975年／初回放送2025年2月1日）。別の大学であるが、私も、かなりやんちゃ（バンカラ？）な寮生活（日大先輩風寮）を送っていたので、何とも懐かしい、だが、ある意味羨ましい青春風景であった（ちなみに、私の方が少し先輩さ！）別途番組案内をみると、「寮歌『都ぞ弥生』で知られる北海道大学恵迪（けいてき）寮。自然豊かなキャンパスで寮祭に燃える学生たちの青春を描いた昭和50年の新日本紀行がいまよみがえる。番組から半世紀、200万都市に成長した札幌市の中心部に、川が流れ農場まである北海道大学のキャンパスが今も広がっている。恵迪寮は健在で、全国から集まった学生400人あまりが暮らしている。女性を受け入れるようになった一方、寮祭の伝統は続いており、そこで毎年新たに作られる寮歌には、その時々学生たちの気持ちが届められている。新しい寮歌が生まれるまでを追い、恵迪寮で暮らす現代の若者たちの思いを描く。」とあった。

○モデレーター？またしても、新語が!!

モデレーター？私が知らない（遅れている？）だけなのか？最近では、こうした新語（英語）によくぶち当たる！調べてみると、「コミュニティの安全と快適さを守るための重要な役割で、会議やディスカッションの場で、議論を円滑に進めるための司会進行役」とあり、「主にオンラインコミュニティや配信プラットフォームで活動」し、「特にYouTubeでは、視聴者とのコミュニケーションを円滑に進めるために重要な存在で、その役割は多岐にわたるが、最も基本的なものは、コメントやチャットの監視。不適切な発言やスパムを見つけ出し、迅速に対処。また、視聴者同士のトラブルを未然に防ぐための調整役」とある（だからモデレーター？そこがファシリテーターと違う？）！

また別に、「単に議論を先導するだけでなく、参加者の意見を引き出し、建設的な対話を促進する役割」もあり、「議論や会話の調停役（間を取り持つ役）を務める人を指す」ともある。「参加者の意見を公平に扱いながら、話し合いが脱線せず、目的に向かって進むようにコントロールする。また、参加者の多様な意見を引き出し、お互いの理解を深められるように働きかける。企業の会議や座談会、グループインタビューなどの場で、モデレーターは参加者の意見を整理しながら議論を活性化させ、有意義な結論を導き出すことを目指す。」とある。

考えてみれば、最近の私は、ズームを使った幾つかの交流（OKINAWA教育協働アカデミー等）を行っているが、おそらくそれは、ここで言う「モデレーター」としての参画なのかもしれない（もちろん、スキルはともかく？）!!

○やっと出て来た「御上先生」評！一線を越えている？

一応、「教育」を生業にしてきた身（教育分野の大学教授）として、今回の日曜劇場（TBS番組）は、これまでのドラマ視聴とは、かなり異なる（複雑な？）受け止め方をしている。その場面設定（背後）といい、テーマ（事件）のリアルさといい、これまでの類似番組とは、大いに様相を異にしているのである！番組案内には、「子供が生きる『学校（私立高校）』 大人がもがく『省庁（文科省）』という一見別次元にあるこの2つを中心に展開。未来を夢見る子供たちが汚い大人たちの権力によって犠牲になっている現実、そんな現実一人の官僚教師・御上孝（松坂桃李）と、令和の高校生たちが共に立ち向かう、教育のあるべき真の姿を描く大逆転教育再生ストーリー」とある。

まだまだドラマの展開は未知数なので、それを見届ける必要があるが、ここで触れておきたいことは、この「御上先生」にはモデルとなった教師がいるということである。同作の「学校教育監修」にも携わるK氏（65才）で、「金八批判」をメディアで公言してきた教育者：『金八先生の』弊害で生徒に過剰に寄り添う教員が増え、当時のK氏は子供たちは与えられることが当たり前になったと実感：生徒の目線に立つことは大切：でも、教師は導くのが仕事で、一から十まで答えを与えればいけないわけではない。行きすぎがあると、生徒は自分で考えなくなってしまう。自らの意思で行動する主体性を失った子供の増加に危機感を覚え、教育現場の改革が必要だと痛感した：」とあった。

山形県と東京都の公立中学校で教鞭を執りながら、少しずつ教育改革を進め、10年ほど教育行政に携わったK氏。2014年に着任したT区立K中学校（東京）の校長時代には、400項目以上の教育改革を実行して、全国から注目された人でもあるらしい（その後、YS中学校・高等学校校長に就任され、現在は、「教育者」という肩書。その経歴や具現化された施策（改革）を見ると、ただただ驚くばかりであるが、ちなみに、それに付き合った？関係者達が、K氏のことをどう評価しているのかは、私には分からない（本当はそれが知りたい！）？よくある「マスコミヒーロー」であって欲しくないと思うのは、私だけであろうか？（井上）

○テセウスの船：何故これが、問題とされるのか？

○（後期）青春の意味？そこに欲しい「疾風怒濤」？！

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕④〇〇

先号で、迂闊にも知ってしまった「シンギュラリティ（技術的特異点）」のことであるが、実は、そこには、「テセウスで書いておきたいことがある！それは、「後期」青春の意の船」と呼ばれる興味深い観点があるようである！すなわち、それは、「パラドックスの一つであり、テセウスのパラドックスとも呼ばれる。ある物体において、それを構成するパーツが全て置き換えられたとき、過去のそれと現在のそれは『同じそれ』だと言えるのか否か、という問題（同義性）（後期青春もあるということ）が、ひよっとしたら消え失せて（奪われて）いるのではないかということである。その時は、何のことかよく分からなかったが、どうやら、これも、これに関わっているらしいのである！！急かされている（だから、弱いつ生き辛くもなっている）！！

〇二からは、九州での隠れた事績を追う！その一。以上、繰り返すように、ここでは、「近畿大和か、九州か？」といううな、単純な「著撰一人的な史実解明のスタンスは、その真の姿を見失ってしまう」ということであり、「日記」が示す「高天原神話（八岐大蛇退治）や「田雲の國譲り」等を含む「天孫降臨」「日向三代」、そして「神武東征」等（これらは、すべて九州あるいはそのかちのもの）も、そうした視点での解釈が求められるということである！しかも、神社伝承（神名等を含む）や地名の同一、類似性等は、まさに、「九州」と「近畿大和」との関係が如実に示している（ただし、そこに、「吉備」「田雲」「近江」「丹波」等が介在していることは言うまでもない）！！

それはともかく（詳しいことは分らないので）、件の「技術的特異点」とは、「汎用人工知能（AGL: Artificial General Intelligence）」、「強い人工知能」、人間の知能増幅などが可能となったときに起こると言われる出来事。自律的に作動する優れた機械的知性が一度でも創造されると、機械的知性が自らバイジョンアップを繰り返す、人間には想像が及ばないほど優秀な超知能が誕生するという技術哲学的な主張で、その人智を越えた機械的知性は文字通り人間の理解の及ばない原理で動作し、設計され、更に高度な知性を生み出していくかもしれない」とある。

そこで、まずは、『百濟本紀』に見える（『日本書紀』に挿入されている）「日本書紀」について考えてみたい！何故なら、その国は、先に述べた「筑紫後国と豊国倭国」の並立と相剋の前後階のものと考えられるが、要は、神功皇后、武内宿禰、仲哀天皇、そして応神、仁徳天皇等が繰り返されたとされる、かの「空白の4世紀」の時代の表舞台になったところだったのではないかということからである！！ちなみに、その書紀については、『日本書紀』神功皇后撰政46年（紀年では西暦246→366年、百濟王の使者が卓淳国（現在の韓国慶尚北道大邱市近辺）に至り、その「日本書紀」への道を尋ねたとの記事があるようである。（つづく）

要は、「AIが、人間の能を越える？」ということであるが、その可否はともかく（可能ではあるらしい）、それによって実現される世界、あるいは人間の自分自身性（アイデンティティ）がどうなっていくのかが問われるわけである（→2040年問題！単純に考えれば、AIと人間との関係性の問題だが、AIを創り出した人間が、そのAIの自律性（意思）によって、どのように変わっていくのかである！ただ、それは、個としての人間（+AI）と、全体としての人間社会（+AIネットワーク）とは、まったく様相を異にする？蛇足ではあるが、「テセウスの船」は、あくまでも認識の問題（記憶と自意識）である！！

- ・ モデレーター？ コーディネーターや ファシリテーターと どう違う？
 - ・ 文部官僚が 高校教師に？ その背後とリアルに エンタメ超える？
 - ・ やつと分かった テセウスの意味？
 - ・ 青春とは ある意味深く暗い河？
- だが渡り切らなくては いけないのだ！

（堂本）